

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成 30 年 1 月 22 日 (NO.102)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

別海町視察団来町

■平成 30 年 1 月 22 日(月)、別海町教育委員会谷口秀文指導主幹、別海町校長会盛繁治会長をはじめ 27 名の教育関係者が来町され、浦幌町が進める「小中一貫 CS」の推進状況等について視察されました。

主な協議内容は次のとおりです。

① 学園小中一貫 CS 委員会の委員の決定方法、開催回数、活動内容について

校長の推薦に基づき、教育委員会が任命する。開催日数は年 8 回を基本とするが、それ以上に開催している。学園が「熟議」を通して作成したアクションプランの中から取組の重点項目を設定し、「教育の日実践交流会」で取組成果を交流している。PDCA サイクルをまわすことが重要であり、学園・学校評価に基づき、学校運営の改善等に役立っている。

② 幼稚園や保育所との連携を図るためのビジョンについて

小中一貫 CS 委員会に幼稚園や保育所の園長も所属し、「リレー家読」など義務教育と同様の活動に取り組んでいる。具体的な活動を通じた連携・協働の在り方を模索している。

③ 「うらスタ部会」の活動内容、両学園共通の取組について

うらスタ部会では、地域の人材や資源を活用した「ふるさと学習」等の教育課程の編成・実施、修学旅行や地域活性化発表等の取組を展開している。教育の日実践交流会での「リレー家読」や「スマホ・ゲーム機の活用」等の交流発表などは、両学園共通の取組となっている。

④ 地域と学校の協力態勢について

冬のイベント「しゃっこいフェス」等では地域からの協力依頼がある。CS 委員が楽しく積極的に活動する姿が、子どもたちや地域の人たちの関心を集め CS の魅力を高めている。

⑤ 教職員の協力態勢の確立について

教職員が CS の必要性を理解し、勤務時間内で活動できる仕組づくりを進めるため、教職員との「熟議」が必要である。まず、小中学校間で連携・協力することにより、教育の成果があがることを実感することが大切。

今後、校舎建築を伴う場合、分離型より一体型のほうが望ましい。



○別海町の皆さんが、地域の特色を活かした意欲的な取組をされていることに、大きな刺激をいただきました。ありがとうございました。

来町された別海町教育関係者の皆さん